

【病院・診療所】

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	三原城町病院	三原市城町一丁目14番14号	病院	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.76 Is/Is <sub>o</sub> =1.40 CTU・SD=0.8	補強方法が多岐にわたり補 助要綱も勘案し、検討中		塔屋2 Is <sub>o</sub> =0.54
				一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版, 2011年版)	Is=0.56 Is/Is <sub>o</sub> =1.03 CTU・SD=0.59			塔屋1 Is <sub>o</sub> =0.54
	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)			Is=0.46 Is/Is <sub>o</sub> =0.76 q=1.84	4階部分 耐震診断の結果(詳細) Y方向 Is <sub>o</sub> =0.6 ゾーン8 Is=0.46 q=1.84			
	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)			Is=0.39 Is/Is <sub>o</sub> =0.72 CTU・SD=0.271	4階部分 耐震診断の結果(詳細) Is <sub>o</sub> =0.54 X方向 ゾーン1 Is=0.39 CTU・SD=0.271 ゾーン2 Is=1.93 CTU・SD=1.60 Y方向 ゾーン3 Is=0.41 CTU・SD=0.43 ゾーン4 Is=0.63 CTU・SD=0.38 ゾーン5 Is=0.91 CTU・SD=0.37 ゾーン6 Is=1.10 CTU・SD=0.44 ゾーン7 Is=0.56 CTU・SD=0.22			
	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)			Is=0.27 Is/Is <sub>o</sub> =0.5 CTU・SD=0.29	1階から3階部分 耐震診断の結果(詳細) Is <sub>o</sub> =0.54 X方向 3階 Is=0.47 CTU・SD=0.39 2階 Is=0.34 CTU・SD=0.35 1階 Is=0.42 CTU・SD=0.37 Y方向 3階 Is=0.36 CTU・SD=0.38 2階 Is=0.33 CTU・SD=0.34 1階 Is=0.27 CTU・SD=0.29			
	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)			Is=0.59 Is/Is <sub>o</sub> =1.09 CTU・SD=0.61	-			-
	新館部分			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)	Is=0.77 Is/Is <sub>o</sub> =1.42 CTU・SD=0.28	-	-	Is <sub>o</sub> =0.54 Rt=1.0

附表 耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。)	II (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。)	III (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)
(3-2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版, 2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s / I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{s0}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	$I_s / I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{s0}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

※別表1, 2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずる恐れは少なく、倒壊する恐れはない。

※別表2に掲げる耐震診断方法のうち(4-1)から(5-6), (11), (12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及び $I_{s0}$ を算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。

※※特記なき限り、地域係数 $Z=0.9$ , 補正係数 $G=1.0$ ,  $U=1.0$ として耐震診断されています。